

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	一般小売店〔菓子〕（総務担当）	来客数の動き	・インフルエンザの影響があった前年と比較すると、来客数は順調である。
	やや良くなっている	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・10月中旬以降、急に寒くなったことで、アウターの動きが良くなった。単価も改善しており、前年比で増加している。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・前年比2倍程度の売上となっており、特にこの数か月は、テレビを中心として販売数が増加傾向にある。
		家電量販店（営業担当）	販売量の動き	・年末を待たずしてテレビが売れている。エコポイント制度変更によるポイント減額前の駆け込み購入がほとんどであり、ブルーレイ録画機も合わせて売上が増加している。冷蔵庫についても、多少伸びている。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・10月の入込客数は、3か月前比、また前年比でも改善している。ドラマの影響による四国ブームで上向き傾向である。
		通信会社（企画）	お客様の様子	・比較的高額な商品や、オプション商品への関心が高く、引き続き堅調である。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・10月は人の動きが芳しくなかった。厳しい残暑の影響を引きずった様相である。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・土日の来街数は、観光客中心に好調を維持しているものの、ファミリー層やOL等、購買力のある客の来街が、残暑の影響から極端に減少しており、特に平日の落ち込みは大きい。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	販売量の動き	・取引先である飲食店の動きからみても、外食を控える傾向に変わりはない。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・来客数は前年と同水準にあるものの、客単価は大きく下落してきている。
		百貨店（営業担当）	それ以外	・来客数は前年同月並みを確保したが、売上高は若干下回った。婦人、紳士衣料品および宝飾、呉服等の高額品は前年を下回ったが、ブランド商品群を含む雑貨、食品等は概ね前年水準を確保した。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・少しずつ気温が下がっているものの、コート・ジャケット等の秋冬物の動きが鈍い。販売数量、売上について、販売計画、前年実績を共に下回る日が続いている。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・全体では前年割れが続いている一方で、前年を上回る部署も増えており、下げ止まり感はある。
		スーパー（店長）	単価の動き	・たばこ増税前の駆け込み需要の反動が、売上を押し下げる要因になっている。一方で、青果物の値上がり等が単価上昇に貢献し、全体として売上は増加した。
スーパー（店長）		販売量の動き	・最近まで野菜価格が高騰した分、他商品が買い控えられていた。ようやく野菜価格が落ち着いてきており、他商品の売れ行きも回復している。全体的には客単価は変わらず、低水準で推移している。	
スーパー（企画担当）		お客様の様子	・食品を中心に客の買上状況は堅調に推移している。気温が下がるにつれて、鍋商材等も動いてきている。	
スーパー（財務担当）		単価の動き	・価格下落は継続しており、ディスカウントの流れは止まらない。同業大手の施策が、市場混乱にますます拍車をかけている。	
スーパー（人事）		お客様の様子	・収入が増えない状況では、消費が増加する理由がない。子ども手当にしてみても、貯蓄あるいは地デジ対応費用へ回っていると思われる。	
コンビニ（店長）		販売量の動き	・たばこ売上は9月比で落ち込んでいるが、それ以外の、特に必需品以外の販売は好調である。	
衣料品専門店（副店長）	お客様の様子	・必要な物を必要な時に購入する傾向が続いている。2、3か月前と比較しても変化はない。		
衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・10月前半は気温が高かったことから、秋冬衣料の目的買いが少なく、買上客数も前年比で大幅に減少している。		
一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・10月に入り、たばこは、増税前の駆け込み需要からの反動で、前年比で大きく下回っている。売上の増加要因であった野菜価格の高騰も、中旬以降は落ち着いてしまっている。		

	旅行代理店（支店長）	販売量の動き	・海外旅行は、円高の影響でヨーロッパ方面を中心に引き続き好調である。国内旅行は、個人旅行及びビジネス出張関連の販売が落ち込んでいる。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・10月に入り過路シーズンになったが、前年よりあまり見かけない。また、街中の人出も昼夜問わず減少しており、特に夜は少ない。乗車しても近距離中心であり、客単価が低い。	
	設計事務所（職員）	販売量の動き	・手持ち受注残を抱えており、この時期の販売量としては例年に比べて低いものの、全体的には安定推移している。	
やや悪くなっている	商店街（代表者）	競争相手の様子	・競合店が、販売価格の割引や値下げ等の販売戦略を取っている。	
	商店街（代表者）	それ以外	・天候不順が、季節商品の展開を予測困難にしている。また、デフレに拍車がかかることで、利潤もますます低下している。	
	一般小売店〔酒〕（販売担当）	お客様の様子	・料飲店に酒類を卸している関係で繁華街をみるが、人出が少ない。	
	スーパー（店長）	来客数の動き	・たばこ増税前の駆け込み需要が終了し、客数は減少傾向である。主力商品の生鮮、日配品の売上減少が継続している。また、秋物衣料も不振である。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー購入補助金制度終了以降、販売量は半減している。中古車の販売量は、これまでと変わらない。	
	タクシー運転手 観光名所（職員）	お客様の様子 来客数の動き	・3ヶ月前と比べ、客単価は10%程度減少している。 ・来場者数が前年比で約5%落ち込んでいる。	
	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・来客数、客単価共に、前年と比較し非常に落ちこんでいる。	
	競艇場（職員）	販売量の動き	・施設改善工事の影響で10月は開催日数が僅か9日間であった。当ポート場における月間売上は、通常月の16%程度にまで減少する見込みである。仮に通常通りの営業日数で割り戻し試算すると、前月比で23%、3か月前比で54%、前年比で46%減少しており、工事という特殊要因を勘案しても低迷している。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・客の来店周期が延びている。	
悪くなっている	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	単価の動き	・客数、客単価共に下落している。	
	コンビニ（総務）	来客数の動き	・10月の来店客数は前年比で5%減となった。たばこ増税前の駆け込み需要の反動も影響している。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー購入補助金制度の終了以降、全く車が売れなくなった。	
	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・10月の軽自動車の届出台数は、9月受注残がありながらも、前年比80%になっている。また、受注台数は前年比50%を割り込むほどに激減している。	
	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・エコカー購入補助金制度の終了と同時に、新車購入客は減少し、10月に入っても回復していない。	
	その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	販売量の動き	・客単価2,000～3,000円の居酒屋業態が非常に厳しい。客数減少に歯止めがかかっていない。	
	美容室（経営者）	お客様の様子	・来店サイクルが長くなっており、来店客数、客単価は悪化している。	
	設計事務所（所長）	それ以外	・分譲マンション在庫は、さばかれつつある。しかし、新規の建設計画はほとんど出てきていない。	
企業動向関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	農林水産業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・供給減により、取引単価は上昇している。
		木材木製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・住宅に関しては、マンション供給の減少、土地の値下がり、各種政策などの影響により、特に一戸建て新築や分譲が順調に推移している。マンションについては、まだ回復しているとはいえず、好調時の3分の1程度である。
		鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・受注・販売量は増加傾向にある。納期対応のため、時間外労働・休日出勤も増加している。

	変わらない	通信業（営業担当）	それ以外	・第2四半期決算が始め、経営層との会話では、円高が改善されれば、年度末に向け良い方向に向かう、との希望的観測も聞く。
	やや悪くなっている	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・加工食品等について、家庭用向けは、特売で安売りされている。業務用は、受注量、販売量が低下傾向にある。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・9月までは順調であったが、10月に入り受注が減ってきている。取引先からは、消費者が不要不急のものを購入しなくなったとの声を聞く。好調なのは、中国人などの観光客を相手にする小売業くらいである。
		一般機械器具製造業（経理担当）	受注価格や販売価格の動き	・競争が厳しい。輸出も円高で受注単価が下がっている。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注が少なくなっている。数か月前に注文のあったものが、直前に厳しい条件で変更を求められるなど、急減速を感じる。設備投資控えが、顕著になっている。
		通信業（部長）	受注量や販売量の動き	・10月は時期的に商品が動きにくい。依然として価格競争も厳しく、量的拡大は望めない状況である。顧客企業もコスト・パフォーマンスを重視しており、薄利である。
		不動産業（経営者）	取引先の様子	・業界は大変厳しい状況が続いている。事務所を引き払う同業者もみられる。
		公認会計士	取引先の様子	・10月の関与先の決算状況では、売上・利益共に前年比減少している企業が70%を超えている。依然として景気は下向きである。
	悪くなっている	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・10月から需要期に入り、本来受注量は増加しなければならないが、全く増加していない。
		建設業（総務担当）	それ以外	・改修、改築、部分増築関連は増えている一方で、新規の大型物件は少ない。景気の先行き不透明感から、経営者は、危険負担を伴う新規投資を控えているものとみられる。
		輸送業（統括） 輸送業（支店長）	それ以外 取引先の様子	・荷動きが悪い。 ・燃料価格の高騰も影響し、荷主の生産量調整が継続している。
雇用関連	良く なっている	-	-	-
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・来年度の新卒求人企業数は前年と同水準であり、新卒ニーズに大きな変動は無い。中途即戦力ニーズは前年比で少し回復するものの、低水準である。ハローワーク基金訓練や労働局の就職支援セミナー受託などから、全体としては良い状態が続いている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が、前年同月比で連続3か月増加している。
		職業安定所（職員）	それ以外	・9月の有効求人倍率は0.59倍である。3か月前比で0.08ポイント上回っている。
	変わらない	人材派遣会社（営業部長）	求人数の動き	・中途採用案件が多少上向いてきていたものの、円高などの影響が出始めている。
新聞社〔求人広告〕（担当者）		周辺企業の様子	・新たな事業展開や新規出店の情報がない。県外資本のパチンコ店新築くらいである。新卒採用についても、せいぜい「良い人材がいれば考える」程度であり、非常に消極的である。	
やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・減少に転じていた新規求職者が、わずかながらも増加に転じている。	
	民間職業紹介機関（所長）	求職者数の動き	・この1か月で、大学4年生の登録者が増加している。10月になっても、採用未決定で就職活動をする学生が例年より多く見受けられる。企業は、例年よりも新卒採用を減らしているようである。	
	学校〔大学〕（就職担当）	求職者数の動き	・求人数は前年とほぼ同水準である。一方で、求職者数は前年に比べ増加している。	
	悪くなっている	-	-	-